くすまち 玖珠町 ハピカム ミライデザイン会議

独立皆拓でまちづくり

大分合同新聞社が、「地域や人々とのつながりを大切にし、長期的なビジョンを共有しながら一緒に地域の未来をデザインしたい」との思いで2011年にスタートさせたプロジェクト・ミライデザイン会議「ハピカム」。第14弾となる玖珠町編が14日、同町のくすまちメルサンホールなどであった。他自治体と合併しない自立の道を選んだ玖珠は、盆地によって育まれた豊かな農畜産品があり、可能性を秘めた多くの観光資源もある。町の未来を創造するため、将来を担う若手リーダーと同世代の大分合同新聞社員らが、分科会と総括会議を通して白熱した議論を交わした。「1次産業（コーディネーター／河辺敏和）」、「観光（コーディネーター／村上忍）」、「地域力（コーディネーター／藤内教史）」の3分科会にはそれぞれ、関連する現場で活躍する若手リーダーが4人ずつ出席。外部アドバイザーやコーディネーターの記者と共に地域の未来について語り合った。分科会の内容をテーマごとに紹介する。総合アドバイザーは大分大学工学部助教の姫野由香氏。総合コーディネーターは佐藤洋一・大分合同新聞社整理部長。

主催／大分合同新聞社　共催／玖珠町　玖珠町商工会　協賛／国立大学法人 大分大学　（株）大分銀行　（株）ドコモCS九州大分支店　日本たばこ産業（株）熊本支店

未来話せば 次の扉開ける

Mototoshi Fujiwara
藤原 基利 さん
玖珠町在住、44歳。高校卒業後に就職していたが、20歳の時におじの影響できのこ業界へ転職。将来は生産団体を形成したいと頑張っている。

合宿招致の システムを

Miki Sakamoto
坂本 美喜 さん
日田市天瀬町出身、大分市在住。26歳。JTB九州大分支店教育旅行科で営業を行う。「人の交流を創造できる仕事をしていきたい」

新しい品目に 取り組みたい

Hirotaka Anai
穴井 広高 さん
玖珠町在住、38歳。玖珠町たばこ青年部長。専門学校を卒業後、コンピューター関係の仕事をしていたが30歳で帰郷し、両親の葉タバコ栽培を継ぐ。

田んぼから エースを

Eiji Kuwano
桑野 英司 さん
玖珠町在住、44歳。とんかつ東華代表取締役。高校を卒業後、企業勤務を経験した後、家業を継いで法人を立ち上げた。6次産業にも取り組む。

ロハスが コンテンツに

Nozomi Eguchi
江口 望 さん
玖珠町在住、29歳。くす旅サービス勤務。京都嵯峨美術大学短期大学部イラストレーションデザインコースを卒業後、京都市の雑貨屋勤務を経て現職。

人力車を 導入したい

Koji Hirao
平尾 公司 さん
別府市出身、大分市在住。39歳。ホテル清流支配人。中国料理の調理師として沖縄、京都、大阪など各地で勤務。2014年からホテル清流で支配人を務める。

見える化や 情報発信が大事

Hirofumi Yorozu
万 洋史 さん
福岡県出身、大分市在住。43歳。イオン九州光吉店農産主任。大学を卒業後、マイカル九州に入社、2005年にイオン九州へ。農産を担当してきた。

広げ方が重要

Hidetoshi Murakami
村上 栄俊 さん
大分市在住、31歳。大分ベンチャーキャピタルサブマネージャー。立命館大学を卒業後、大分銀行に入行。玖珠などの支店勤務を経て昨年から現職。

いい牛を つくりたい

Kyoji Akiyoshi
秋吉 教司 さん
玖珠町在住、33歳。和牛繁殖と野菜農家を営む。23歳で実家に戻り、農業を継ぐ。24歳で家畜人工授精師の資格を取得し、牛の人工授精に取り組む。

まず地元の人が 町を好きに

Tomoaki Hirata
平田 智昭 さん
玖珠町在住、40歳。create only one HI-CHA代表取締役。九州芸術工科大学を中退後、家業を手伝う傍らデザインの仕事をし、2014年に会社を設立。

町に貢献 し続けたい

Masaru Ii
井 勝 さん
長崎県出身、玖珠町在住。40歳。自衛隊玖珠駐屯地自衛官。上対島高校を卒業後、自衛隊へ入隊。長崎県、石川県などの駐屯地で勤務。

若い就農者 来れば活気出る

Kentaro Hara
原 健太郎 さん
玖珠町在住、39歳。玖珠町農林業振興課農政係主査。1998年に入庁。新規就農者、6次産業化、災害復旧、企業参入などを幅広く担当している。

とにかく 率先して動く

Eiji Yoshida
吉田 栄治 さん
玖珠町在住、41歳。森地区コミュニティ連絡協議会青年部。調理技術専門学校卒。お食事処「富」を経営する傍ら、伝統芸能の保存活動にも取り組む。

子どもに 良さ教えよう

Daisuke Saito
斎藤 大介 さん
玖珠町在住、40歳。玖珠町商工観光振興課商工観光係主査。熊本学園大学を卒業後、玖珠町役場へ入庁。農林課、環境防災課などを経て現職。

長いスパンで 考えることが大切

Hisanori Anai
穴井 久徳 さん
玖珠町在住、39歳。玖珠町役場まちづくり推進課。農林業振興課、商工観光課などを経て現職。まちづくり企画、町グランドデザイン事業を担当。

思いが形に なることを期待

Norifumi Tonai
藤内 教史
2000年入社。37歳。社会部、東京支社編集部付、社会部などを経て報道部。『今動かなきゃ』という皆さんの思いがつながり、形になることを期待。

玖珠愛は永遠

Shinobu Murakami
村上 忍
1993年入社。47歳。広告管理部などを経て校閲部課長。町民の笑顔とあふれる情熱、絆の深さにとても感動させられました。私の玖珠愛は永遠です。

コンパクトな 町が武器に

Toshikazu Kawabe
河辺 敏和
2002年入社。35歳。整理部。玖珠という自然豊かな町で、コンパクトなコミュニティーは新たなことを創造する武器になると感じた。

総合アドバイザー

Yuka Himeno
姫野 由香 さん
大分市在住、39歳。大分大学工学部助教、工学博士。専門は建築・都市計画。景観創造、景観維持を中心に自主的な地域運営についても研究している。

総合コーディネーター

Yoichi Sato
佐藤 洋一
1991年入社。47歳。整理部部長。取材で訪れた時に見た、田園風景にぽっかりと浮かぶ切株山の姿が印象に残っています。ゆっくり(仕事抜きで)訪れたい。

総括会議の様子は3月30日（月）の朝刊をご覧ください。

ウェブ http://www.oita-press.co.jp　スマートフォン http://www.oita-press.co.jp/h-come/

感動を、
シェアしたい。

夢を共に分かちあう。厳しさを共に実感する。
長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。
それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、
執念に近い情熱。アイデアにあふれ、期待に応える提案。
また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。
そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功を共に喜び、
「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。

大分銀行